

# 子育て施設の利用倍増

河内長野市の子ども・子育て総合センターが、移転をきっかけに利用者が倍増している。南海と近鉄の河内長野駅前という立地に加え、土日開館など、旧センターの利用者からの要望を採り入れたことが受けたようだ。

## 河内長野、要望に応え



「あいつく」はすべり台などの大型遊具がそろい、いつも子どもたちの歓声でにぎやかだ。河内長野市本町

新しい施設は、河内長野駅前の商業施設「ノバティ」なごの1内に、昨年10月27日にオープンした。公募で名称を募集、「愛育」にちなんだ造語で「あいつく」と名付けた。

昨年10月19日まで、駅からバスで5分ほどかかる場所に「子育て支援センターかわちなごの」があった。だが、利用者数は伸びず、「狭い」「家族みんなで行くように土日にはいつも開館してほしい」という声もあがっていた。

このため市は約1億2千万円をかけ、「あいつく」を整備。これまでの倍となる約1千平方メートルの敷地に、木製の大型遊具などで遊べるコーナーや絵本コーナーを構えた。

「託児サービスがあれば助かる」という要望を受け、生後6カ月から未就

学児1人につき1時間あたり500円、上限4時間まで一時預かりをするサービスも始めた。保育士らが常駐し、子育てに関する相談を無料で受け付けている。

あいつくによると、移転前は利用者が月平均で2千人未満だったが、移転後の11月と12月はいずれも5千人前後に跳ね上がった。

1歳の娘を連れてやってきた市内に住む主婦の小野田早織さん(29)は「広いし、おもちゃの種類も豊富。土日もやっていると、いつでも来られる安心感がある。ほぼ毎日来ています」と笑顔で話す。

市外からの利用者も多く、あいつくの緒方博主幹は「あいつくに来たついでにビル内のスーパーで買い物をして帰るといった人も多く、その逆のケースもある。あいつくを拠点に河内長野を訪れる人が増えて、中心街が活気づいてくれればうれしい」と期待する。

午前10時～午後5時半、水曜休み。問い合わせはあいつく(0721・50・4664)。

(長野佑介)

# 大阪

堺泉州

## 駅前移転・土日も開館・敷地は広々